

ミナサン オハヨウゴザイマス

皆さんに再会できたことを嬉しく思います。東日本大震災から 1 年たった今日この日に、仙台支店の皆さんと仙台支店にて一緒に迎えることをできたことを大変光栄に思います。

昨年、この場で皆さんにお会いして以降、1 日たりとも、皆さんのことを忘れた日はありません。

震災後 1 年のこの日を迎えたことを非常に簡単にとらえる方もいらっしゃるかもしれませんが、皆さんにとって今日が非常に困難なものであったことを存じております。

今日までの 1 日 1 日が大変であったことを存じあげております。

毎日の職場までの通勤もそうであったでしょうし、お客さまとの関係維持もそうであったでしょうし、毎晩ご家庭にもどってからご家族と過ごされるお時間もそうであったでしょう。

私は、皆さんのこの痛みを絶対に忘れることはありません。また、銀行全体がそのことを忘れることもありません。

昨年 6 月に株主総会にて、東北大震災における当行の経験をお伝えしました。日本、当行、そして仙台支店の皆さんについて、私が感じたことをお伝えいたしました。

想像を絶する惨事を流し続けるテレビの映像からは窺い知れない、日本の素晴らしさを学んだことをお伝えいたしました。

それは日本人の皆さまの気質・本質であります。

そして困難な状況であっても地域社会にて貢献することや、そして一人一人の前に向かう気持ちや並みはずれた個人のコミットメントについてです。

昨年、仙台支店にて皆さんにお会いしたときに、このことを全て目の当たりにしました。

私がいつも思い浮かべる事として、株主の皆さまにお伝えしたことは、仙台支店の皆さんの逞しさ、ならびに困難な時期を通じて確立された銀行全体の一体感についてです。

その組織の強さ・素晴らしさを目の当たりにしました。

そして今後当行が、邁進するに当たりこの潜在力は忘れてはならないと思っています。

あおぞら銀行のみならず、行員の一人一人のものであります。

昨年 6 月の株主総会においても、株主の皆さまに私が目の当たりにした日本の社会の素晴らしきこそが、これから復興に向けてのエネルギーになるのだとお伝え申し上げました。

一夜にして成し遂げられることではありませんし、簡単ことではありませんが、必ず復興できると思っております。

このことは株主総会にて申し上げたことでもありますが、この思いは今も全く変わりません。

昨年 3 月に訪問した際は、想像を超える震災の影響で、本当に復興できるのかと不安に思うこともありました。

昨日の宮城県庁における式典への参列や、荒浜の視察は、私へ強い衝撃を与えたと共に、復興に向けての道のりはこれからだということを認識させられました。

しかしながら、時が経つと、人々は、その状況に慣れてしまい、そのまま進んでしまうという慣習を持っています。

しかし、今回の震災を経験した皆さんにとりましては、時が経っても普通の状態に戻ることはないということを感じています。

あおぞら銀行としては前に進まなければなりません、この経験は決して忘れてはならないと思っています。

これから皆さんが生き続ける限り、また皆さんがどこで働くことになると、この 3.11 の震災を共に経験した、同僚のことを決して皆さんは忘れられないと思います。

これだけの困難を一緒に経験したという絆は、一生つながるものだと思いますし、その経験が大変辛いものであってこそ皆さん一人一人の強さにつながったと思っております。

自分の人生においてこれだけ大変なことが起こるだろうとは思いませんでしたが、皆さんの勇気によってこれを乗り越えることができましたのです。

皆さんの同僚も決して、その努力を忘れることはありません。

皆さんもご存知かと思いますが、被災地を対象としたボランティア休暇制度の1年の延長を最近発表いたしました。

また、日本赤十字社を通じた義援金の募集も6ヶ月間延長することにいたしました。

そして、皆さんとの特別な関係を示す、皆さん一人一人から寄せ書きを頂いた「頑張ります。仙台」の行旗についても、私の部屋に飾ることを検討しております。そうすれば毎日この旗を見ることができ、皆さんとの「絆」を常に感じる事が出来ることとなります。

皆さんが、今日の当行のために、強さと勇気を示していただき誠にありがとうございます。そして、あおぞら銀行のためだけでなく、東北地方の復興のため、ご尽力いただいていることに対して心より感謝しております。皆さんのコミットメントが私へのエネルギーとなり、将来に向けての希望の思いを強く抱くことができることになりました。

アリガトウゴザイマシタ